



# 自転車交通安全 教育マニュアル

[概要版]

第1章 交通安全教育の目標

第2章 自転車交通安全教育の基本

第3章 自転車交通安全教育(指導事例)

---

指導者用資料

## はじめに

自転車は手軽で、利便性が高く、環境にやさしく、健康増進にも有効であり、都市生活には欠かすことのできない大切な交通手段です。都内でも多くの中学生・高校生が、友だちとの遊びに、買い物に、塾通いにと自転車を利用しています。

近年、全交通事故に占める自転車事故の割合は、3割以上を占めていて、しかも年々増加しています。特に、中学生の交通事故では、自転車による事故の占める割合が約9割、高校生でも約7割に達しています。

東京都は、中学生・高校生の交通事故減少を目的として、学校での指導を支援するため、自転車に乗る際の最低限遵守すべきルール、マナーについての指導を行うための手引きを作成しました。

本書は、中学校・高等学校教育で活用していただくために作成したのですが、それだけにとどまるものではありません。中学生・高校生の保護者や地域の方々にもごらんいただき、中学生・高校生への指導に参加していただくとともに、自らの知識の確認にも活用していただけるものです。

## 第1章 交通安全教育の目標

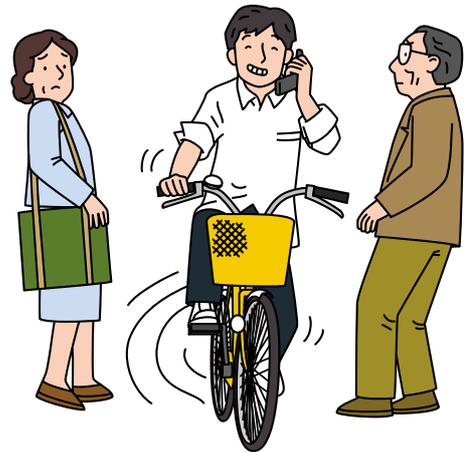
- 1 自転車交通の現状 ……………02
- 2 交通安全教育の意義と指導の基本的な考え方 ……04
- 3 生徒の身に付く安全指導 ……………06

# ① 自転車交通の現状

## 環境負荷の少ない交通手段—自転車

自転車は手軽で、環境に優しい乗り物として各世代に利用されています。

都内の自転車は、自動車を上回る約836万台（平成17年）が保有されていて、都民の3人に2人が利用している生活に欠かせない交通手段となっています。また、健康志向の高まりから、今後も利用が増えると予想されています。



# ② 交通安全教育の意義と指導の基本的な考え方

## 交通安全教育の意義

生徒に対する自転車の安全指導は、心身の発達や個人の特性に即した指導が大切になってきます。また、この安全指導は、将来の二輪車や四輪車運転にかかわる基礎的指導として、重要な意義を持つものです。

# ③ 生徒の身に付く安全指導

## 本書の役割

本書は、「体験して身に付け、繰り返し指導する指導事例」を紹介しています。主に50分単位の展開となっていますが、それぞれの指導項目は、短時間で活用することにも配慮しています。朝の会や帰りの会、昼食時などで繰り返し指導することにより身に付けさせたり、「学級だより」を利用し、家庭の中で話し合っただけで考えてもらうなど、有効に活用してください。



### 本書の使用例

- |             |  |
|-------------|--|
| <b>知る</b>   | 学習シートを活用<br>●学習する。<br>●「学級だより」で家庭へも配付する。<br>●話し合わせる。 |
| <b>体験する</b> | 指導事例を参考にして効果的に行う。                                    |
| <b>考える</b>  | 学習シートやワークシートを活用する。                                   |

## 第2章 自転車交通安全教育の基本

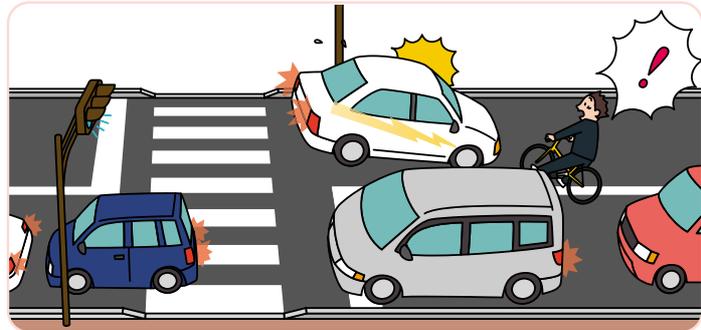
- 1 自転車利用時に潜む様々な危険を学ぶ ……………08
- 2 都内における自転車事故の概要 ……………08
- 3 指導のポイント ……………10

# 1 自転車利用時に潜む様々な危険を学ぶ

事故には必ず原因があります。生徒が事故を起こさない、事故にあわないためには、自ら自転車利用時の様々な危険を学び、事故の原因をつくらない安全な行動を考え、実践する力をつけることが大切です。

# 2 都内における自転車事故の概要

▶中学生の交通死亡  
事件事例  
渋滞のため停止中  
の車両の間から安全  
確認せず横断



# 3 指導のポイント

本書は、「体験して身に付け、繰り返し指導する指導事例」を紹介しています。主に50分単位の展開となっていますが、それぞれの指導項目を短時間で指導することもできます。

- ① 朝の会や帰りの会、昼食時などを利用した毎日の指導
- ② まとまった時間における指導
- ③ 学校行事としての指導

を組み合わせ、効果的に指導が行えるよう、ここでは基本的な指導事例を紹介します。

① 毎日の指導 (「指導事例1 生徒への声かけ」)  
日常生活において、生徒の交通安全意識の高揚を図ります。

② まとまった時間における指導  
(学級活動—1単位50分) (「指導事例2 「ひやり・は  
っと体験」の発表」, 「指導事例3 危険予測学習」)  
日常における様々な危険を予測して、的確な判断の

下に、安全に行動できる資質や能力を育成します。

③ 学校行事としての指導  
(「指導事例4 自転車安全マップの作製」)

全校又は学年を単位として、計画的、組織的に交通安全教育を実施します。

## <参考>

### 第2章 指導のポイントの一例

## 第2章 自転車交通安全教育の基本

[実践型]

# 生徒への声かけ



**指導のねらい** >>> 生徒への声かけを繰り返し、交通安全意識を高める。

学校生活の様々な場面で、生徒に自転車の交通事故原因・事故の起こりやすい場所や交通ルールなどに関する内容を声かけし、生徒の交通安全意識を高める。

活動モデル案 >>>

### ●活動例

安全指導(教室・校門・自転車置き場など)

### ●指導の流れ

自転車の交通安全に関する声かけ(教師)

### ●指導計画のポイント

下校時、休日の前など生徒が自転車に乗る状況を選んで繰り返し声かけられるよう、指導時期・場所を選定する。

### ●事前準備

- ・自転車事故の実態を把握する。【p.08参照、警察署】
- ・交通ルール、マナーを知っておく。【指導事例①⇒p.39参照】

### ●連携関係機関

警察署、区市役所・町村役場交通安全担当課から交通事故や交通安全に関する資料や情報の提供を受ける。

[声かけ内容の例]

- ・車道の左端を通る
- ・歩道は歩行者優先
- ・子ども、お年寄り、体の不自由な人のそばを通るときは降りるか、徐行
- ・止まれの標識では絶対に一時停止
- ・並んで走らない
- ・暗くなったらライトをつける
- ・信号は必ず守る
- ・交差点では安全確認をする
- ・乗ったまま電話やメールはしない
- ・傘さし、携帯電話使用などで片手運転はしない
- ・二人乗りはダメ
- ・後ろからの車などに注意して方向を変える
- ・〇〇町の交差点で事故があったから気をつけなさい



- |                                      |                                   |
|--------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 道路の歩行や道路横断時の危険の理解と安全な行動の仕方 ……24    | 5 自転車運転者の義務と責任についての理解 ……48        |
| 2 自転車の点検・整備と正しい乗り方 ……26              | 6 子ども・高齢者・障害のある人等の交通安全に対する配慮 ……53 |
| 3 二輪車、自動車の特性の理解と自転車乗車時の安全な行動の仕方 ……33 | 7 安全な交通社会づくりの重要性の理解と積極的な参加 ……55   |
| 4 交通法規の正しい理解と遵守 ……39                 |                                   |

## ① 道路の歩行や道路横断時の危険の理解と安全な行動の仕方

**指導のねらい** >>> 歩行時の安全な行動について理解させる。

歩行中の事故には、様々な場面が予測されることから、それらの危険を常に予測し、安全かつ周囲に配慮するような歩行を心がけるように徹底する。

## ② 自転車の点検・整備と正しい乗り方

**指導のねらい** >>> 自転車の日常点検・整備ができるようになる。

自転車は「車両」に分類されることから、整備不良の自転車に乗ることは法律違反となることを理解させ、自転車の日常点検・整備ができるとともに、定期点検の重要性を認識させる。

## ③ 二輪車、自動車の特性の理解と自転車乗車時の安全な行動の仕方

**指導のねらい** >>> 二輪車、自動車の特性を理解し、事故防止に役立てる

自動車の内輪差、死角を知ることにより二輪車、自動車の特性を理解し、歩行時、自転車運転時の交通事故防止に役立たせる。

## ④ 交通法規の正しい理解と遵守

**指導のねらい** >>> 自転車に関する交通法規を正しく身に付けさせる。

自転車には、車両として守らなければならない多くの決まりがあることを理解させる。

## ⑤ 自転車運転者の義務と責任についての理解

**指導のねらい** >>> 自転車に乗る際に必要となる運転者の義務と責任を理解させる。

自転車による様々な交通事故の状況等を通して、事故を起こした時の法律的な責任と運転者としての義務があることを理解させる。また、交通事故によって当事者の家族等が受ける影響の重大さを理解させる。

## 6 子ども・高齢者・障害のある人等の交通安全に対する配慮

**指導のねらい** >>> 交通弱者に対してどのように配慮していくべきかを考え、行動を身に付けさせる。

高齢者体験スーツ、目隠し、車いすを利用し交通弱者の体験をすることで、相手の立場を考えた行動を身に付けさせる。

## 7 安全な交通社会づくりの重要性の理解と積極的な参加

**指導のねらい** >>> 安全な交通社会づくりの重要性を知り、交通安全活動への参加を促す。

地域で抱える交通安全に関する問題点を知ることにより、交通ルールの遵守が安全な交通社会に重要であることを理解させ、交通社会の一員であることを自覚させる。

### <参考>

#### 第3章 指導事例の一例

### 第3章 自転車交通安全教育(指導事例)

[実践型]

## 交通法規指導



**指導のねらい** >>> 自転車に関する交通法規を正しく身に付けさせる。

自転車には、車両として守らなければならない多くの決まりがあることを理解させる。

### 活動モデル案 >>>

#### ●活動例 学級活動(短時間指導)

#### ●指導の流れ

- ①学習シートを配り、短時間指導を繰り返す。(教師)
- ②ワークシート(テスト等)を使って理解度を確認する。(生徒)

#### ●指導計画のポイント

年間計画に従って、意図的・計画的に指導する。

#### ●事前準備

・交通法規の確認

#### ●連携関係機関

警察署、区市役所・町村役場交通安全担当課や教育委員会などから交通法規についての資料提供を受け、疑問点を解決する。

学級活動などのできる  
5分間指導

5分

指導項目

指導内容

留意点/ポイント

交通法規の理解

・学習シートを配付し、テーマごとに理解を深めさせる。  
・ワークシートを配付し、解答させる。

自転車に乗るために必要な交通法規を理解させる。

# <参考>

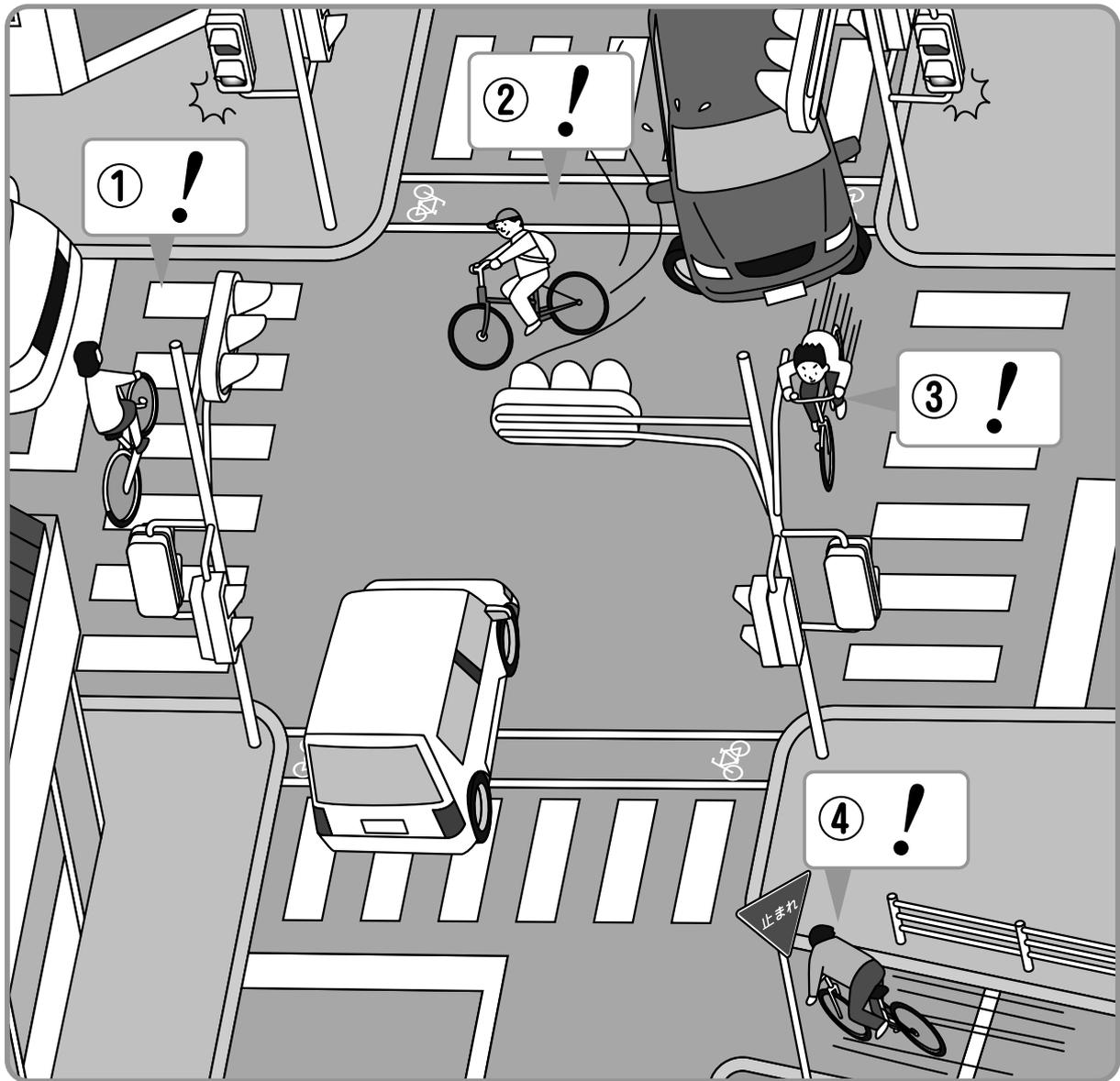
## 第3章 ワークシートの一例

### ワークシート

## 交差点の通行方法

年 組	名前
-----	----

①～④の人は、法律に違反しています。  
何がいけないのか、下の欄に書きましょう。



1	
2	
3	
4	

## <参考>

### 第3章 指導事例の一例

#### 第3章 自転車交通安全教育(指導事例)

[体験、実践型]



# 自転車運転者の義務と責任

**指導のねらい** >>> 自転車に乗る際に必要となる運転者の義務と責任を理解させる。

自転車による様々な交通事故の状況等を通して、事故を起こした時の法律的な責任と運転者としての義務があることを理解させる。また、交通事故によって当事者の家族等が受ける影響の重大さを理解させる。

#### 活動モデル案 >>>

##### ●活動例

学級活動(道徳、保健・体育の時間)(教室使用)

##### ●指導の流れ

- ① 運転者の義務と責任についての説明(教師) 15分
- ② 被害者遺族の作文の朗読(教師又は生徒代表) 10分
- ③ 感想文の作成(生徒) 20分
- ④ まとめ(教師) 5分

##### ●指導計画のポイント

年度当初に指導し、生徒に運転者としての義務と責任を自覚させる。

##### ●事前準備

「ひやり・はっと体験」のワークシート[p.14]を配付して生徒に記入させておくと、当事者意識が高まる。

##### ●連携関係機関

警察署、区市役所・町村役場交通安全担当課から自転車の事故事例、事故を起こしたときの行動、法的責任や賠償責任、TSマーク等の概要等の資料や情報の提供を受ける。消防署から応急手当[p.52参照]の資料や情報の提供を受ける。

##### 「TSマーク」とは

自転車安全整備店で点検・整備を行った自転車にはられるもので、1年間の傷害補償と賠償責任補償がついている。[p.51参照]

#### [具体的指導内容]

時間	指導項目	指導内容	留意点/ポイント
15分	運転者の義務と責任について	学習シートを配付し、自転車運転者が加害者となった場合には、多くの義務と責任があることを指導する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車の事故事例(加害者)等を交えて説明する。</li> <li>・事故を起こしたときの責任と補償</li> <li>・事故を起こしたときに何をするか(義務)</li> <li>・事故に備えた保険制度(TSマーク等)があることについて理解させる。</li> </ul>
10分	交通事故によって当事者の家族等が受ける影響	交通事故遺族の手記[p.49]の朗読	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朗読又は黙読を通して、交通事故によって家族や友人がいなくなったときに受ける様々な気持ちを考えさせる。</li> </ul>
20分	感想文	遺族の手記を聞いて(読んで)の感想文を書かせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故によって、いつもいる人が突然いなくなったときの心情を想像させる。</li> <li>・命の大切さを理解させる。</li> <li>・事故にあわない、事故を起こさない安全な行動を自覚させる。</li> </ul>
5分	まとめ	教師が基本的な注意事項について押さえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故には運転者としての義務と責任が伴い、自転車事故でも損害賠償請求がなされる。</li> <li>・交通事故を起こさない安全な自転車利用の重要性</li> <li>・命の大切さを理解させる。</li> </ul>

学級活動などのできる

**5分間指導**

時間	指導項目	指導内容	留意点/ポイント
5分	運転者の義務と責任について	学習シートを配付し、運転者としての義務と責任について指導する。	「学級だより」などを利用して家庭へも配付し、安全な行動と命の大切さを理解させる。